

ノーム通信89

2003-11

〒130 0026 東京都墨田区両国4-30-4-1109

GNOMES



少し前に太陽の黒点が大きくなって電磁波の波が地球に押し寄せ、東北地方でもオーロラが見えたと新聞で騒いでいた、さぞかし電磁波から隠れて生きている白装束の方々は大変だったろうと思った。東北で小さい頃にオーロラを見たと言う人もいるけれども、そんな仕組みだったかと納得した。納得したが、新聞で改めて大きな爆発をする太陽の写真を見ていて、改めて太陽というのは巨大な核爆弾なのだと実感した。その表面は常に地球なんか塵のように吹き飛ばす規模の爆発が繰り返されていて、よく太陽自体が吹き飛ばないものだ。写真をじっと見ていると、確かに巨大な火の玉で、たったこれ一つが私達のすべての命の元であり、限りなく繰り返される爆

発のどの一瞬の気まぐれからも、あっという間にすべてが終わってしまうという現実が見えてしまった。人はそう長い間この世にいられるものではないのは十分わかっているし、もうこの辺でそろそろいいかなと思いついてもいいけれども、そんな気持ちの大きな部分は、後に残る人達に適切な責任をまあ、おおむね果たせたかな、後は交代して楽しくやってちょうだいよ、というものであってその後がまったくの命のない黒い空間になってしまうことまでは想定していない。いのちの鎖が続いていることが大きな救いになっているのに、今、なにをしよう、なにを残そうと、すべて塵や宇宙空間にさまようガスになって四散してなーんにも残らないと言うのはちょっとつらいな。せめてヒトダマか風になって自由に野原を駆け抜けられたらいいのに、すべてないと言われたら、さあどうします。

とまあ、燃え盛る球体の写真を見て今更ながら、「生きると言うことの意味」などという青春映画みたいなことを考えたが、そういつまでも考えてもいられなくて、目の前の仕事や金策に追われ、酔って、青い顔をして朝からトイレを探してうろろろしています。映画みたいにかっこよくは生きられないものだ。

今月も引き続き仕事としては農業問題が頭をぐるぐる回っていて、よく言われている、高齢化で、70代80代の方でも元気に生きがいをもって働ける農業を目指しましょう、なんてたくさん言われている中で、「そりゃあ今の70代80代の方は元気でそれなりのお膳立てをすれば明るく楽しくやっていただけるだろうけれども、そんなことばかりやっていたら、20年後30年後にまでいくらなんでも続きはしない、やっぱり、若い世代が育ってくれないとどーにもならなくなる。」とぶつぶつ言いながらなにが出来るのかを考えています。さしあたって金にならなくなった里山をどーするんだ。荒れてきた畑をどーするのだ。IT化と云って、ITがどーしてくれるというのだ。やれるもんならやってみる。土地の歴史や祭りや形に表れない文化とどうやって一緒になったふるさとを作っていけばいいのだ。地に足の着いた子供達が育つにはどーすりゃいいんだ。そんなことを考えれば考えるほどいい加減なことが言えなくなって、あたりまえなことをスマートに並べあげた各地のマスタープランを見ても腹が立ってくると言う、健康に実に良くない毎日をすごしております。まあ、何も残らないと言われたら、まあ、その、やっぱり、どうしたらいいんでしょうね。

子供達の作文集「まなざし」の来月の編集は12月20日です。手伝いの方はお願いします。

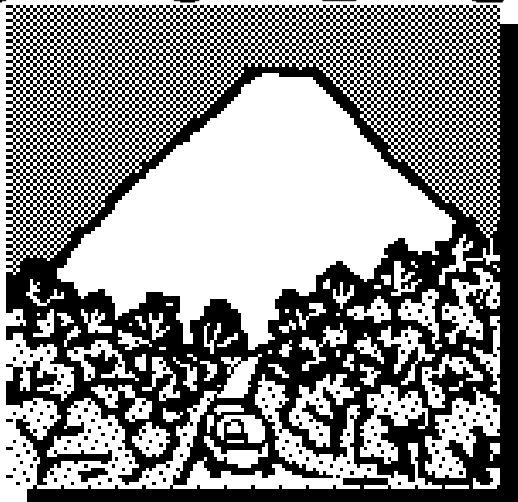
<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195

高村 哲

GnomesJpn@aol.com

まなざし



文集「まなざし」

2003- 11 192

持っている力をつくして生きるということがどれだけ心地よいかがわかるのは、文明人の特権かも知れない。毎日体をはって生きている人にはその喜びがわかりづらい。

子供はそんな大人のあとを走ってきていつか追い抜いてゆく。気がつくと、昔子供だったものがたくましく力をつくして生きている。生き物は昔からずっとそうしてきた。動物の「ナマケモノ」はどうなのかと言われるとちょっと言葉につまるが、あれもあれなりにたぶん一生懸命にまいにちすごしているのだろう。

人が人らしいのは生きるのが大変で毎日力をつくして生きてきたからにほかならない。ぼーとしていると、他の動物のえさになったり、大水で流されたり、湯気で干からびてしまったり、雪の世界でカチーンと凍ってしまったりするから、持っている力を集めあってきながら人間になっていったのです。

このあいだ、ネパールの登山ガイドが数日ここに泊まっていたが、いろいろ話していて、「日本の子供はゲームばかりやっているからあんな顔になってしまうんでしょうか、私が知っている日本の大人たちとなんてあんなに顔がちがうんでしょうか。」と言っていた。彼から見てもあまりに日本の子供達、特に学生や若者達の顔が軟弱で、ぼーとしたアホに見えるらしい。なぜだろうかと考えてみたら、昔と今でまったく違うのはらくーに生きられることかもしれないと気がついた。世の中は仕事がないきびしい状態じゃあないですかー。と尻上がりに言うかもしれないが、きびしいのは中高年の人たちで、寝る間も削って働いてきた人たちが今、不要だと言われているだけで、子供や青年層までは関係ないのです。

でも、それはどこかで帳尻が合うようになるでしょうね。シーソーをしているようなもので片側に行き過ぎれば今度は反対に動くはずです。ただ、このシーソーは実に残酷で情け容赦はない、ただの自然現象ですから。多くなりすぎたねずみに集団自殺がありますが、それほどではないにしても、似たようなことはあってもおかしくない。非常なしっぺがいいしがありそうです。

ではどのようにすればいいかという。私個人からすれば、ピンボアの底で力の限り家族みんなで苦闘し続けていけばいいと思っているが、公式見解としたら、それぞれの世代がしっかり目と耳を開けて、落ち着いてよく考えて話し、書くというまことにまっとうな当たり前の生き方を推奨します。まあ、苦勞するのはいいことだと言いたいだけでした。たくさん苦勞していい顔になりましょう。GNOMES